「学校安全総合支援事業」（いわての復興教育スクール〈内陸〉）成果報告書

学校名：軽米町立軽米中学校

Ⅰ　事業の概要（地域の実情含む）

1　自然災害についての理解を深め、地域の現状をとらえることによって、災害への備えについて考え、防災意識の向上を図る。

2　ふるさと「軽米」を地域の方々とのふれ合いを通して学び、ふるさとを愛し、誇りに思い、地域のために貢献しようとする態度を育てる。

Ⅱ　取組の概要

1　１学年

（1）普代村震災学習【７月３日】

東日本大震災による津波被害の学習や普代中学校１学年との交流会を実施。

＊１０月の台風１９号の被害に対して、普代中学校への募金活動を行い、メッセージと共に届けた。

（2）雪谷川豪雨災害学習【７月 17 日】

講師；岩手日報社　　太田代　剛　様

礒崎　真澄　様

２０年前に軽米で起きた自然災害を学習することで、日頃の備えについての意識を高める。

（3）ディスカバー軽米学習【９月１２日，３０日】

軽米町の産業について学び、ふるさとへの理解を深める。

訪問先；軽米・西山太陽光発電所

サンメディックス軽米植物工場

十文字チキンカンパニーバイオマス発電所

2　２学年

宿泊研修【７月３～４日】

宮古市田老地区で、東日本大震災による津波被害の学習や被災にあった方々との交流会を実施。

3　３学年

（1）地域伝統芸能に関する講話

【７月 10 日、９月４日】

軽米町に伝わる４つの伝統芸能（駒踊り，沢田神楽，山内神楽，宇漢米太鼓）に関する学習会を実施。

＊　その後、学年全員で山内神楽に取り組んだ。神楽は文化祭、地区中文祭、県中文祭、町内の老人福祉施設で発表した。

（2）生き方を語る会【7月16日】
講師；軽米町長　山本　賢一　様

軽米町への思いや町づくりにふれ、自分のこれからの生き方を考える。

（3）おかげさま活動
福祉施設を訪問し、合唱やソーラン節などを披露する中で、郷土への愛着を醸成していく。

4　その他

夢灯り【9月28日】
２０年前の雪谷川豪雨災害の町主催の追悼イベントにＰＴＡ研修厚生部を中心に、生徒、保護者、約30名が参加した。

Ⅲ　取組の成果と課題

1　成果

（1）地域学習や地域を支える多くの方々とふれあう中で、生徒自身が地域の良さに気づくことができた。そして、軽米への誇りや思いを高めることができた。

（2）東日本大震災の被害や復興の過程を学習することができた。生徒の被災時の年齢も下がってきており、震災の記憶も薄れてきている。今後も震災について、振り返る場を設定していきたい。

（3）東日本大震災の津波被害にあわれた方々からお話を聞くことで、災害の恐ろしさはもちろんのこと、自分にとっての「ふるさと」とはどんな存在なのかを考えることができた。

（4）故郷への思いの高まりから、地域への行事に積極的に参加する生徒が増えた。

（5）自然災害の学習から、災害への日頃の備えに対する意識の高まりが見られた。また、軽米町で発生する可能性のある河川の氾濫や土砂崩れなどへの防災意識が向上した。

（6）軽米町を支えている方々の思いにふれることで自分がどのように軽米町に関わっていくべきなのかを考えることができた。

2　課題

（1）様々な活動する中で、地域との連携が深まってきたが、さらに強固なものにし、生徒の活動を支えていく支援体制づくりが必要である。

（2）小中高の連携の中で、系統立てていくことでより一層の成果につながっていくものと考える。

（3）防災意識など、生徒によって意識に差がある。全生徒が高い意識をもつ工夫を図っていく必要がある。さらに、家庭での防災強化にも図っていきたい。